

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校穴吹動物看護カレッジ		平成18年3月23日		岩澤正俊		〒761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町721-1 (電話) 087-826-2222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人穴吹学園		平成3年4月10日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		動物看護総合学科		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的	トリミングやトレーニングができる動物看護師を育てることを目的とする							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:愛玩動物看護師 中途退学率:							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,400 単位時間	1,430 単位時間	0 単位時間	970 単位時間	0 単位時間
				126 単位	95 単位	0 単位	31 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
90 人	82 人		0 人		0 %	20 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人					
	■就職希望者数(D)		23 人					
	■就職者数(E)		23 人					
	■地元就職者数(F)		18 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	家事手伝い							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				2,400 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				320 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				2,400 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				320 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				180 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総単位数				126 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				10 単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位				
うち必修単位数				126 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				10 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				6 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人			
	計				10 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物病院で働く動物看護師として必要な知識と技術を習得するためのカリキュラムを編成している。診療現場で役立つ確かな作業を身につけるため、実際に診療にあたっている獣医師、看護師から技術を学び、又自分で考え、迅速に的確な作業を行うための獣医療知識を獣医師、看護師から学べるカリキュラム編成を行っている。このようなカリキュラム編成、授業内

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高重 宏一	香川県健康福祉部生活衛生課	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
篠原 公七	公益社団法人香川県獣医師会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
荒岡 杉	荒岡動物病院	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
戸倉 潤也	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
林 勇樹	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(11月、2月予定)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年12月16日 14:00～15:00
第2回 令和7年2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
動物病院での採用が飽和状態になり、今後の新規採用への影響が予想されるため、地方行政での採用を目指してのカリキュラム検討の必要性についてご意見をいただいた。カリキュラムの見直しを行い、採用枠の拡充を目指すこととする。
外部の競技会参加によって学ぶことが多々あり、学生の成長につながるのではないかとのご意見をいただいた。県外も含めて情報を集め、学生がスタッフとしてお手伝いするなど学部で学ぶ機会を創出し、物事に取り組む姿勢の変容を狙うこととする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
動物外科看護学実習 I・II	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅などについて学び人とペットの共生のための生活のあり方を理解する。	久保動物病院、すざき動物病院
AAA実習 I・II	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通して学ぶ。	高松中央高校幼稚園 あなぶきメディカルケア ロイヤルケア高松
動物看護総合実習 I・II・III	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	動物病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和6年8月	対象:	教員
内容	ワイヤーフォックステリアの講習会		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	令和6年8月	対象:	動物看護系教員
内容	動物内科看護学実習の指導について、動物生活環境学ペット関連産業界の		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が目分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		
研修名:	LGBTQの基礎知識	連携企業等:	穴吹教育総合研究所
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	多様性の理解		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和7年8月	対象:	教員
内容	シニア犬のトリミング技術講習		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	未定	対象:	動物看護系教員
内容	愛玩動物看護師養成に関連した内容		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が目分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることでより良い人材の育成に努める

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(2)学校運営	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(4)学修成果	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(5)学生支援	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(6)教育環境	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(7)学生の受入れ募集	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは
(8)財務	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(9)法令等の遵守	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開して
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森川 崇	元県立観音寺中央高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	元高校関係委員
喜多 泰三	県立農業経営高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係委員
蓮井 良太	はすい動物病院	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
木村 昭代	南天堂薬局	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣移住者委員
吉田 朋美	学生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

公表時期: 令和7年12月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2)各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3)教職員	教職員の概要、等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

公表時期: 令和7年12月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との 連携
	必修	選択 必修	自由 選択						講 義	演 習	実験・ 技実習・実	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ実習Ⅰ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、文書作成ソフト(Word)の操作と文書作成能力を養う	1 後	30	1			○	○			○	
2	○			コンピュータ実習Ⅱ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、表計算ソフト(Excel)のデータ集計機能、グラフ作成機能、データベース機能を利用し、わかりやすい集計資料などの作成能力を養う	2 前	30	1			○	○			○	
3	○			サービス接遇講座Ⅰ	サービス接遇検定3級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、動物看護師・ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を身につける。お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 前	30	2	○			○		○		
4	○			サービス接遇講座Ⅱ	サービス接遇検定2級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、動物看護師・ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 後	30	2	○			○		○		
5	○			サービス接遇講座Ⅲ	サービス接遇検定準1級に合格する接客の基本スキルを身につける。接客の基本を学ぶことにより、ペット業界スタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。グループ練習を通して、多様性を理解し、協調性とコミュニケーション力を習得する。	2 前	20	1	○			○		○		
6	○			社会人基礎講座Ⅰ	専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。	1 後	30	2	○			○		○		
7	○			社会人基礎講座Ⅱ	専門学校での学習の意味を理解し、進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。就職活動に必要な知識・技術を学び習得する。	2 前	30	2	○			○		○		
8	○			ペット美容学	犬の健康維持と手入れの基本を学び、顧客の相談に対応できるようにする。	2 後	30	2	○			○			○	
9	○			犬種標準学Ⅰ	犬の種類と特徴を知ること、犬との触れ合い方や飼養方法を学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○		
10	○			犬種標準学Ⅱ	犬種の特徴を知り、訓練、美容、看護の分野で役に立つようにする。	1 後	30	2	○			○		○		
11	○			グルーミング実習BASICⅠ	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1 前	20	0			○	○		○		
12	○			グルーミング実習BASICⅡ	グルーミング作業(ブラッシング・ペイジング・ドライイング・爪切り・耳そうじ・クリッピング・足回り)をできるようにする。	1 後	30	1			○	○			○	
13	○			トリミング実習BASICⅠ	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2 前	30	1			○	○			○	
14	○			トリミング実習BASICⅡ	グルーミング作業の効率・スピードUPを目指す。部分カットに必要な、トリミングの基礎を身に付ける。	2 後	30	1			○	○			○	
15	○			トレーニング実習Ⅰ	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1 前	30	1			○	○			○	
16	○			トレーニング実習Ⅱ	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1 後	30	1			○	○			○	
17	○			トレーニング実習Ⅲ	犬の集中力・正確さをやしなう。	2 前	30	1			○	○			○	
18	○			トレーニング実習Ⅳ	犬の集中力・正確さをやしなう。	2 後	30	1			○	○			○	
19	○			トレーニング実習Ⅴ	犬の集中力・正確さをやしなう(2年次に履修した内容をさらにレベルアップする)	3 前	30	1			○	○			○	
20	○			生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	

21	○		動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みと解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解する。	1 前	60	4	○			○		○	
22	○		動物形態機能学Ⅱ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化についても学ぶ基盤を確立する。	1 後	60	4	○			○		○	
23	○		動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	3 前	30	2	○			○		○	
24	○		動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 前	30	2	○			○		○	
25	○		動物栄養学Ⅰ	動物のライフステージ別の栄養管理や疾患による栄養要求の違いを学び管理方法を理解する。	2 前	30	2	○			○		○	
26	○		動物栄養学Ⅱ	動物のライフステージ別の栄養管理や疾患による栄養要求の違いを学び管理方法を理解する。	2 後	30	2	○			○		○	
27	○		比較動物学Ⅰ	産業動物及び実験動物の歴史や品種、飼育管理方法及び関わり、さらに日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○	
28	○		比較動物学Ⅱ	産業動物及び実験動物の歴史や品種、飼育管理方法及び関わり、さらに日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	3 後	30	2	○			○		○	
29	○		動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	1 前	15	1	○			○		○	
30	○		動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	1 前	15	1	○			○		○	
31	○		動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1 前	30	2	○			○		○	
32	○		動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2 後	30	2	○			○		○	
33	○		動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3 前	30	2	○			○		○	
34	○		動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3 後	30	2	○			○		○	
35	○		動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類、伝播様式や発病のメカニズム等を学び、検査や診断、予防・治療法など感染症の基礎を習得する。	1 前	30	2	○			○		○	
36	○		動物感染症学Ⅱ	伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。	1 後	30	2	○			○		○	
37	○		動物感染症学Ⅲ	伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。	2 前	30	2	○			○		○	
38	○		公衆衛生学Ⅰ	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2 後	30	2	○			○		○	
39	○		公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立てる総合的な学科学目である。ヒトと動物の共生などを対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意すべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。	3 前	30	2	○			○		○	
40	○		動物内科看護学Ⅰ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	2 後	30	2	○			○		○	
41	○		動物内科看護学Ⅱ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3 前	30	2	○			○		○	
42	○		動物内科看護学Ⅲ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3 後	30	2	○			○		○	

43	○		動物外科看護学Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	30	2	○				○		○	
44	○		動物外科看護学Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	2	○				○		○	
45	○		動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1 後	30	2	○				○		○	
46	○		動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	2 前	30	2	○				○		○	
47	○		動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	2 後	30	2	○				○		○	
48	○		動物臨床看護学各論Ⅲ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	3 前	30	2	○				○		○	
49	○		動物臨床看護学各論Ⅳ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	3 後	30	2	○				○		○	
50	○		動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	2 前	30	2	○				○		○	
51	○		動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、動物病院スタッフ間のコミュニケーション方法を学ぶ。3後	3 後	30	2	○				○		○	
52	○		愛玩動物学Ⅰ	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1 前	30	2	○				○		○	
53	○		愛玩動物学Ⅱ	愛玩動物看護師は様々な動物の看護に携わる可能性があり、また、その飼い主へ飼養管理指導をする場面も想定される。エキゾチックアニマルの歴史や品種、身体的特徴、適切な飼育方法、代表的な病気にについて理解する。	1 後	30	2	○				○		○	
54	○		人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	2 後	30	2	○				○		○	
55	○		適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3 前	30	2	○				○		○	
56	○		適正飼養指導論Ⅱ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3 後	30	2	○				○		○	
57	○		動物生活環境学	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅などについて学び人とペットの共生のための生活のあり方を理解する。	3 前	30	2	○				○		○	
58	○		ペット関連産業概論	ペット飼養ニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	3 後	30	2	○				○		○	
59	○		動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 前	30	1					○	○	○	
60	○		動物内科看護学実習Ⅰ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力と修得する。	1 前	30	1					○	○	○	
61	○		動物内科看護学実習Ⅱ	講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的な手技を身に着ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。	1 後	30	1					○	○	○	

62	○		動物内科看護学実習Ⅲ	講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に着ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。	2 前	30	1				○	○		○							
63	○		動物内科看護学実習Ⅳ	「動物看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での実践能力に応用を用いて診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。また、手術関連業務として外科手術に必要な「術前準備と術後業務」「麻酔器・モニター機器」までの意義を理解し、機器の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし適切な取り扱いができるようになる。動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、減菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。	2 後	30	1				○	○		○							
64	○		動物臨床看護学実習Ⅰ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 前	30	1				○	○		○							
65	○		動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	30	1				○	○		○							
66	○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	30	1				○	○								○	
67	○		動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	1				○	○								○	
68	○		動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	30	1				○	○		○	○				○	○	
69	○		動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	30	1				○	○		○	○				○	○	
70	○		動物外科看護学実習Ⅲ	周術期の術前、術中、術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する。	3 前	30	1				○	○		○	○						
71	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正使用額に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	1 前	30	1				○	○		○							
72	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正使用額に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	1 後	30	1				○	○		○					○		
73	○		AAA実習Ⅰ	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	3 前	20	0				○		○	○					○		
74	○		AAA実習Ⅱ	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	3 後	30	1				○		○	○					○		
75	○		動物看護総合実習Ⅰ	一定期間企業などの中で研修生として働き、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	1 後	60	2				○		○		○	○					
76	○		動物看護総合実習Ⅱ	一定期間企業などの中で研修生として働き、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	2 後	30	1				○		○		○	○			○	○	
77	○		動物看護総合実習Ⅲ	一定期間企業などの中で研修生として働き、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	3 前	90	3				○		○		○	○			○	○	
合計					77	科目		126 単位（単位時間）													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 期末試験・実技評価・出席率等で評価		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必須科目のすべてを決められた期間で履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校穴吹動物看護カレッジ		平成18年3月23日		岩澤正俊		〒761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町721-1 (電話) 087-826-2222			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月10日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程		動物健康管理学科 ペット美容・グルーマー専攻		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	ペット分野で即活躍できるトリマーを育てることを目的とする								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:JKCトリマーC級ライセンス、サロントリマー検定 等								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			650 単位時間	0 単位時間	1,050 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		78 単位			43 単位	0 単位	35 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
60 人	82 人		0 人		0 %	20 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人						
	■就職希望者数(D)		23 人						
	■就職者数(E)		23 人						
	■地元就職者数(F)		18 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
	評価団体:				受審年月:				
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/								
	評価結果を掲載したホームページURL								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				60 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				60 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総単位数				78 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				2 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位					
うち必修単位数				78 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				2 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人				
	計				10 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物病院で働く動物看護師として必要な知識と技術を習得するためのカリキュラムを編成している。診療現場で役立つ確かな作業を身につけるため、実際に診療にあたっている獣医師、看護師から技術を学び、又自分で考え、迅速に的確な作業を行うための獣医療知識を獣医師、看護師から学べるカリキュラム編成を行っている。このようなカリキュラム編成、授業内容について編成委員から広く意見をいただき、必要とされる動物看護師を養成するためのプログラムを改善構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高重 宏一	香川県健康福祉部生活衛生課	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
篠原 公七	公益社団法人香川県獣医師会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鈴木 ひとみ	サカイ商事株式会社	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
戸倉 潤也	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
林 勇樹	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (11月、2月予定)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年12月16日 14:00～15:00
第2回 令和7年2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
動物病院での採用が飽和状態になり、今後の新規採用への影響が予想されるため、地方行政での採用を目指してのカリキュラム検討の必要性についてご意見をいただいた。カリキュラムの見直しを行い、採用枠の拡充を目指すこととする。
外部の競技会参加によって学ぶことが多々あり、学生の成長につながるのではないかとのご意見をいただいた。県外も含めて情報を集め、学生がスタッフとしてお手伝いするなど学部で学ぶ機会を創出し、物事に取り組む姿勢の変容を狙うこととする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
トレーニング実習Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	株式会社ドッグアドベンチャー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和6年8月	対象:	教員
内容	ワイヤーフォックステリアの講習会		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	令和6年8月	対象:	動物看護系教員
内容	動物内科看護学実習の指導について、動物生活環境学ペット関連産業界の		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		
研修名:	LGBTQの基礎知識	連携企業等:	穴吹教育総合研究所
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	多様性の理解		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和7年8月	対象:	教員
内容	シニア犬のトリミング技術講習		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	未定	対象:	動物看護系教員
内容	愛玩動物看護師養成に関連した内容		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることでより良い人材の育成に努める

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(2)学校運営	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(4)学修成果	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(5)学生支援	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(6)教育環境	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(7)学生の受入れ募集	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは
(8)財務	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(9)法令等の遵守	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開して
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森川 崇	元県立観音寺中央高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	元高校関係委員
喜多 泰三	県立農業経営高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係委員
蓮井 良太	はすい動物病院	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
木村 昭代	南天堂薬局	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣移住者委員
吉田 朋美	学生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

公表時期: 令和7年12月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2)各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3)教職員	教職員の概要、等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

公表時期: 令和7年12月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員 専 任	企業 等 の 連 携	
	必修	選択 必修	自由 選択						講 義	演 習	実 験・ 技 術 実 習・ 実	校 内			校 外
1	○			コンピュータ実習Ⅰ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通して、パソコンの基本操作を学び、文書作成ソフト(Word)の操作と文書作成能力を養う	1 後	30	1			○	○		○	
2	○			コンピュータ実習Ⅱ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通して、パソコンの基本操作を学び、表計算ソフト(Excel)のデータ集計機能、グラフ作成機能、データベース機能を利用し、わかりやすい集計資料などの作成能力を養う	2 前	30	1			○	○			
3	○			サービス接客講座Ⅰ	サービス接客検定3級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。お客さま心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 前	60	4	○			○		○	
4	○			サービス接客講座Ⅱ	サービス接客検定2級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。お客さま心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 後	60	4	○			○		○	
5	○			サービス接客講座Ⅲ	サービス接客検定準1級に合格する接客の基本スキルを身につける。接客の基本を学ぶことにより、ペット業界スタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。グループ練習を通して、多様性を理解し、協調性とコミュニケーション力を習得する。	2 前	20	1	○			○		○	
6	○			社会人基礎講座Ⅰ	専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。	1 後	30	2	○			○		○	
7	○			社会人基礎講座Ⅱ	専門学校での学習の意味を理解し、進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。就職活動に必要な知識・技術を学び習得する。	2 前	30	2	○			○		○	
8	○			犬種標準学Ⅰ	犬の外観や行動をよく理解しお客さまにあった犬種を提供できるようになること。ペットブームになり犬を飼育する人が増えてきたが捨てられる純犬種の割合が多くなってきた。犬の提供する側の知識不足だと思われる。少しでも犬種の生態を知ってミスマッチを防ぎ犬と人がよりよい関係を築く手助けができる人材になるためによく理解できるように説明する。	1 前	30	2	○			○		○	
9	○			犬種標準学Ⅱ	犬種の特徴を知り、訓練、美容、看護の分野で役に立つようにする。	1 後	30	2	○			○		○	
10	○			動物看護学Ⅰ	動物を取り扱う仕事に就く上で必要となる救命救急や消毒、健康管理などの動物看護についての知識を座学、実習を通して学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○	
11	○			動物看護学Ⅱ	イヌ・ネコに携わる業務に就くにあたり、必要とされる動物のケアに関する知識・技術について学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
12	○			繁殖飼育学	犬の繁殖に関して、繁殖適期や禁忌となるフリーディングなどについて学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
13	○			動物飼養管理学Ⅰ	動物関係法令や動物愛護運動史、適正な飼養・健康管理、各種動物の飼養管理、犬の繁殖学等の知識を体系的に修得・普及する指導員を養成する。	1 後	30	2	○			○		○	
14	○			動物飼養管理学Ⅱ	動物飼養の理解と検定取得 動物に関する法律・動物の習性・疾病・適切な飼養管理について学び、愛玩動物と人との共存を考える。愛玩動物飼養管理士2級合格レベルの知識を身に付ける。	2 前	60	4	○			○		○	
15	○			動物飼養管理学Ⅲ	動物飼養の理解と検定取得 動物に関する法律・動物の習性・適切な飼養について学び、愛玩動物と人との共存を考える。愛玩動物飼養管理士2級合格レベルの知識を身につける。	2 後	30	2	○			○		○	
16	○			動物行動学Ⅰ	動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。動物と人間がいかに共存できるか学習する。	1 前	30	2	○			○		○	
17	○			トレーニング実習Ⅰ	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1 前	30	1			○	○		○	
18	○			トレーニング実習Ⅱ	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。基礎訓練(脚側行進・伏臥・停座・据座・立止・招呼)を習得する。	1 後	30	1			○	○		○	
19	○			グルーミング総論	グルーミングに関する基礎知識をまなび、実習につなげる。	1 前	30	2	○			○		○	
20	○			グルーミング各論	各犬種のグルーミング知識をまなび、実習につなげる。サロントリマー3級検定の学科試験対策。	1 後	30	2	○			○		○	

21	○		トリミング総論	トリミングに必要な知識を身につけ、技術の向上につなげる。	2 前	30	2	○			○		○	
22	○		トリミング各論	JKC C級検定合格に必要なトリミングの知識を身につける。検定の学科試験対策。	2 後	30	2	○			○		○	
23	○		グルーミング基礎実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1 前	180	6			○	○		○	
24	○		グルーミング応用実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1 後	180	6			○	○		○	
25	○		トリミング実習	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2 前	240	8			○	○		○	
26	○		プロフェッショナルトリミング	トリマーに必要な高度なトリミング技術を学ぶ。	2 後	270	9			○	○		○	
27	○		ハンドリング学Ⅰ	ショーハンドリングを習得することにより、犬の心理状況や扱いを学ぶ。	1 後	30	1			○	○		○	
28	○		ハンドリング学Ⅱ	試験と同じ科目を練習する。人の練習でもあるが犬に科目を教えることが目的である。	2 前	30	1			○	○		○	
29	○		動物機能形態学	犬種ごとの骨格構成や性質を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
合計					29	科目		78 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件:	期末試験・実技評価・出席率等で評価		1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	必須科目のすべてを決められた期間で履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校穴吹動物看護カレッジ		平成18年3月23日		岩澤正俊		〒761-8056 (住所) 香川県高松市上天神町721-1 (電話) 087-826-2222		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人穴吹学園		平成3年4月10日		穴吹 忠嗣		〒760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		動物健康管理学科 しつけインストラクター専攻		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的	ペット分野で即活躍できるドッグトレーナーを育てることを目的とする							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:JKCハンドラーC級 等							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	710 単位時間	0 単位時間	990 単位時間	0 単位時間
		80 単位		47 単位	0 単位	33 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
60 人	82 人		0 人		0 %	20 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人					
	■就職希望者数(D)		23 人					
	■就職者数(E)		23 人					
	■地元就職者数(F)		18 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	http://www.anabuki-college.net/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				1,700 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				510 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				1,700 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				510 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総単位数				80 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				17 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
うち必修単位数				80 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				17 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				2 人			
	計				10 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物病院で働く動物看護師として必要な知識と技術を習得するためのカリキュラムを編成している。診療現場で役立つ確かな作業を身につけるため、実際に診療にあたっている獣医師、看護師から技術を学び、又自分で考え、迅速に的確な作業を行うための獣医療知識を獣医師、看護師から学べるカリキュラム編成を行っている。このようなカリキュラム編成、授業内容について編成委員から広く意見をいただき、必要とされる動物看護師を養成するためのプログラムを改善構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高 重 宏一	香川県健康福祉部生活衛生課	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
篠原 公七	公益社団法人香川県獣医師会	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
原 有希	高知ラブドッグスクール	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
戸倉 潤也	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
林 勇樹	専門学校穴吹動物看護カレッジ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (11月、2月予定)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年12月16日 14:00～15:00
第2回 令和7年2月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
動物病院での採用が飽和状態になり、今後の新規採用への影響が予想されるため、地方行政での採用を目指してのカリキュラム検討の必要性についてご意見をいただいた。カリキュラムの見直しを行い、採用枠の拡充を目指すこととする。外部の競技会参加によって学ぶことが多々あり、学生の成長につながるのではないかとのご意見をいただいた。県外も含めて情報を集め、学生がスタッフとしてお手伝いするなど学部で学ぶ機会を創出し、物事に取り組む姿勢の変容を狙うこととする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当者が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アジリティ実習Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	アジリティの基本や歴史から犬との信頼関係の大切さを学ぶ。	株式会社ドッグアドベンチャー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和6年8月	対象:	教員
内容	ワイヤーフォックステリアの講習会		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	令和6年8月	対象:	動物看護系教員
内容	動物内科看護学実習の指導について、動物生活環境学ペット関連産業界の		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		
研修名:	LGBTQの基礎知識	連携企業等:	穴吹教育総合研究所
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	多様性の理解		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トリマー義務研修	連携企業等:	JKC
期間:	令和7年8月	対象:	教員
内容	シニア犬のトリミング技術講習		
研修名:	愛玩動物看護師養成研修	連携企業等:	全国動物専門学校協会
期間:	未定	対象:	動物看護系教員
内容	愛玩動物看護師養成に関連した内容		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和6年8月	対象:	全教職員
内容	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援するという理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることでより良い人材の育成に努める

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(2)学校運営	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(4)学修成果	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(5)学生支援	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(6)教育環境	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(7)学生の受入れ募集	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは
(8)財務	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(9)法令等の遵守	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開して
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森川 崇	元県立観音寺中央高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	元高校関係委員
喜多 泰三	県立農業経営高等学校校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係委員
蓮井 良太	はすい動物病院	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
木村 昭代	南天堂薬局	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣移住者委員
吉田 朋美	学生保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

公表時期: 令和7年12月1日

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2)各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3)教職員	教職員の概要、等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

(3) 情報提供方法

公表時期: 令和7年12月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員 兼 任	企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 技 術・ 実 習	校 内	校 外		
1	○			コンピュータ実習Ⅰ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、文書作成ソフト(Word)の操作と文書作成能力を養う	1 後	30	1			○	○		○	
2	○			コンピュータ実習Ⅱ	情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、表計算ソフト(Excel)のデータ集計機能、グラフ作成機能、データベース機能を利用し、わかりやすい集計資料などの作成能力を養う	2 前	30	1			○	○		○	
3	○			サービス接客講座Ⅰ	サービス接客検定3級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 前	60	4	○			○		○	
4	○			サービス接客講座Ⅱ	サービス接客検定2級取得のための勉強を通して、社会人としての必要なマナー・接客スキルを身につける。接客の基礎を学ぶことによって、ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける。	1 後	60	4	○			○		○	
5	○			サービス接客講座Ⅲ	サービス接客検定準1級に合格する接客の基本スキルを身につける。接客の基本を学ぶことにより、ペット業界スタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する。グループ練習を通して、多様性を理解し、協調性とコミュニケーション力を習得する。	2 前	20	1	○			○		○	
6	○			社会人基礎講座Ⅰ	専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。	1 後	30	2	○			○		○	
7	○			社会人基礎講座Ⅱ	専門学校での学習の意味を理解し、進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。就職活動に必要な知識・技術を学び習得する。	2 前	30	2	○			○		○	
8	○			犬種標準学Ⅰ	日本で飼われている種類を抜粋し生態、外観、飼育方法を身につける。	1 前	30	2	○			○			○
9	○			犬種標準学Ⅱ	犬種の特徴を知り、訓練、美容、看護の分野で役に立つようにする。	1 後	30	2	○			○			○
10	○			ペット美容学Ⅰ	犬の毛や手入れの基礎を知り犬の管理を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○
11	○			ペット美容学Ⅱ	犬の毛や手入れの基礎を知り犬の管理を学ぶ。実技に役立てる。	2 後	30	2	○			○			○
12	○			グルーミング実習BASICⅠ	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1 前	90	3			○	○		○	
13	○			グルーミング実習BASICⅡ	グルーミング作業(ブラッシング・ペイジング・ドライイング・爪切り・耳そうじ・クリッピング・足回り)を学ぶ。	1 後	90	3			○	○		○	
14	○			トリミング実習BASICⅠ	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2 前	60	2			○	○		○	
15	○			トリミング実習BASICⅡ	グルーミングの基礎からさらにスピードをアップさせる。	2 後	60	2			○	○		○	
16	○			動物看護学Ⅰ	犬猫に良く見られる疾病とその処置について学ぶ。	1 前	30	2	○			○		○	
17	○			動物看護学Ⅱ	イヌ・ネコに携わる業務に就くにあたり、必要とされる動物のケアに関する知識・技術について学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
18	○			繁殖飼育学	犬の繁殖に関して、繁殖適期や禁忌となるフリーディングなどについて学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○
19	○			動物飼養管理学Ⅰ	理学動物に関する法律・動物の習性・疾病・適切な飼養について学び、愛玩動物と人との共存を考える。動物飼養管理士の資格取得を目指す。	1 後	30	2	○			○		○	
20	○			動物飼養管理学Ⅱ	動物飼養の理解と検定取得 動物に関する法律・動物の習性・疾病・適切な飼養管理について学び、愛玩動物と人との共存を考える。愛玩動物飼養管理士2級合格レベルの知識を身に付ける。	2 前	60	4	○			○		○	
21	○			動物飼養管理学Ⅲ	動物飼養の理解と検定取得 動物に関する法律・動物の習性・適切な飼養について学び、愛玩動物と人との共存を考える。愛玩動物飼養管理士2級合格レベルの知識を身に付ける。	2 後	30	2	○			○		○	

22	○		動物行動学Ⅰ	動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。動物と人間がいかに共存できるか学習する。	1 前	30	2	○			○		○	
23	○		しつけトレーニング実習Ⅰ	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1 前	60	2			○	○		○	○
24	○		しつけトレーニング実習Ⅱ	担当犬と信頼関係を築く。	1 後	60	2			○	○		○	○
25	○		しつけトレーニング実習Ⅲ	犬の集中力・正確さをやしなう。	2 前	90	3			○	○		○	○
26	○		しつけトレーニング実習Ⅳ	警察犬訓練・セラピー活動での珍芸を覚える。	2 後	90	3			○	○		○	○
27	○		アジリティ実習Ⅰ	アジリティの基本や歴史から犬との信頼関係の大切さを学ぶ。	1 前	30	1			○	○	○	○	○
28	○		アジリティ実習Ⅱ	遠隔で犬と人が意思を通じ合わせる。簡単なアジリティを知る。	1 後	60	2			○	○	○	○	○
29	○		アジリティ実習Ⅲ	アジリティについて深く理解する。	2 前	60	2			○	○	○	○	○
30	○		アジリティ実習Ⅳ	アジリティをすべて知る。	2 後	60	2			○	○	○	○	○
31	○		ドッグトレーニング概論Ⅰ	ドッグトレーニングの重要性を理論的に理解し、実践に役立てる。	1 後	30	2	○			○		○	
32	○		ドッグケア学	犬の一生（ライフステージごと）のアドバイスができる学び。	1 前	30	2	○			○		○	
33	○		動物機能形態学Ⅰ	犬種ごとの骨格構成や性質を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
34	○		ハンドリング学Ⅰ	ショーハンドリングを習得することにより、犬の心理状況や扱いを学ぶ。	1 後	30	1			○	○		○	
35	○		ハンドリング学Ⅱ	ハンドリング試験と同じ科目を練習する。人の練習でもあるが犬に科目を教えることが目的である。	2 前	30	1			○	○		○	
36	○		問題行動学Ⅰ	犬の生態を理解し、人間と動物の共存について学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
37	○		問題行動学Ⅱ	問題行動を実践的に学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
38	○		AAA実習Ⅰ	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	2 前	30	1			○		○	○	
39	○		AAA実習Ⅱ	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	2 後	30	1			○		○	○	
合計					39	科目	80 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 期末試験・実技評価・出席率等で評価		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必須科目のすべてを決められた期間で履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。